島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

SHIROUSAGI

2019
58
October.1

TAKE FREE
ご自由にお持ち帰りください

Contents

特 集 Special issue
『病院から在宅へつなぐ
～地域医療連携センターの取り組み』

インタビュー
- 地域医療連携センター　センター長 …… 齊藤　洋司
- MSW(医療ソーシャルワーカー) …… 太田　桂子
- 地域医療連携センター　看護師長 …… 安田　真紀

退院後訪問について
- 看護部看護教育支援室　皮膚・排泄ケア認定看護師 …… 清水美穂子

＊プロジェクトM
＊在宅医療を支えます
～生活が楽になる福祉器具をご提案します～
＊私のここだけの話
＊留学生の国自慢
＊イベントなどのお知らせ
＊ニュース&トピックス

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

『地域包括ケア』と地域医療連携センターの取り組み

地域医療連携センター　センター長　齊藤（さいとう）　洋司（ようじ）　教授

高齢化で社会を支える若い世代が少なくなり、介護の力を家庭の中だけで補うことが難しくなってきました。

そのような時代の流れの中、「医療機関はもちろん、介護福祉や、地域の生活を支える行政が一体となって、介護が必要な人を支え合っていきましょう」という『地域包括ケア』の考え方が、国の地域医療の政策の柱としてでてきたのが、４、5年前です。

島根大学病院が「地域医療連携センター」を設置したのは15年以上前ですから、当院は早い時期から地域医療を見据えた取り組みを進めていたことになります。

平均在院日数が11日程度と減少する一方で、退院支援が必要な患者数は年々増えており、量・質ともに高い支援が求められています。当センターは、他の病院、診療所、行政などと連携し、患者さんや家族が地域で暮らしたいという気持ちを大切にしたサービスを行っています。

患者サービス

●診療予約　●諸証明、公費負担制度、介護保険、障害福祉サービス等の申請手続き
●まめネット（しまね医療情報ネットワーク）への参加同意受付

入退院支援

病棟に入退院支援員を配置し、入院されたときから退院に向けた支援を行っています。

退院調整

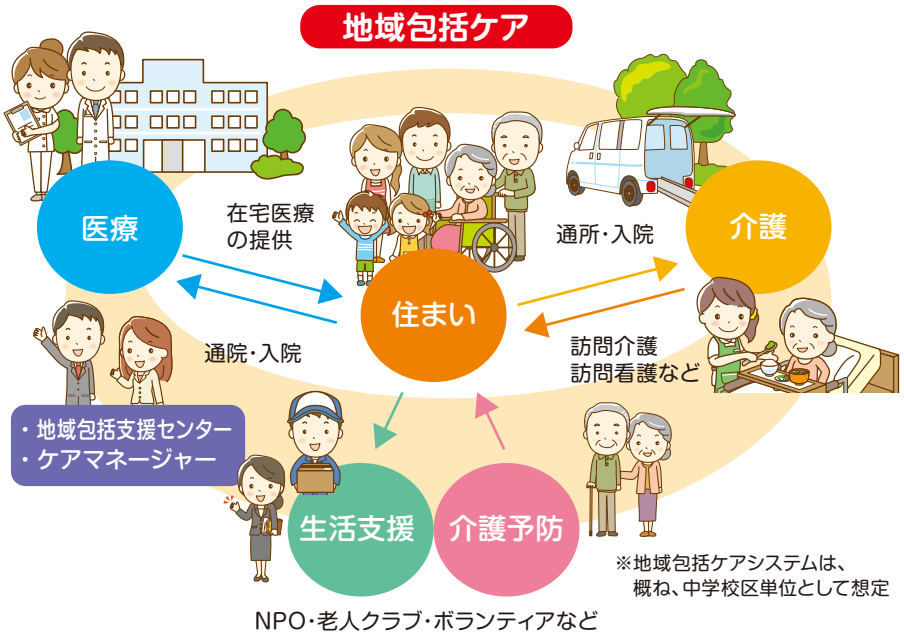
退院調整看護師と医療ソーシャルワーカーがペアとなって、適切な療養先に適切な時期に退院できるよう調整をします。地域の医院・訪問看護ステーション・行政などの外部との連携を密にし、退院前カンファレンスを丁寧に行います。

医療福祉相談

医療費の支払いや、身寄りがない患者さんの治療への同意、入院に伴うご家族の育児や介護、病気が長引いた時の学校や職場との連絡、人間関係がうまくいかない、などのご相談に医療ソーシャルワーカーが対応します。

大きな病院では、このような取り組みはたいてい行われていますが、取り組み方は地域によって、病院によって異なると思います。様々な職種の専門家がいるというのは、大学病院の強みです。

患者さんが、その人らしい、その人が望む生活に戻れるように、私たちは医療を支えるパートナーとして活躍しなければなりません。ぜひ、地域医療連携センターを活用していただきたいと思います。



聴いて、つなぐ―患者さんとご家族のために

医療ソーシャルワーカー（MSW） 太田（おおた） 桂子（けいこ）

── 太田さんが地域医療連携センターの医療ソーシャルワーカー（以下，MSW）になられたきっかけは。

私はもともと看護師でしたが、仕事をしていく中で福祉を学びたいと思い、大学で学び直して「社会福祉士（国家資格）」の資格を取りました。その後、市役所の介護認定調査員や看護短大で看護教育に携わっていましたが、地域医療連携センターが2002年4月に設置され、私は2003年に当センターに着任しました。それまで国立大学病院にはMSWが配置されていなかったので、島根大学病院初代のMSWです。ちょうど介護保険制度がスタートし、退院患者さんの在宅療養への橋渡しや、お金や仕事など生活に関わるサポートが必要とされる頃でした。

── MSWの病院での役割は。

ある日突然、病気になったり、事故に遭ったり、難病と伝えられたら、どうしたらよいでしょう。お金のこと、仕事はどうやって休めばいいかなど、不安や心配が、一気に押し寄せてきます。そんなとき、「この度は大変でしたね。この病院のソーシャルワーカーです。入院や退院後の生活の相談を担当します。今、気がかりなことを聴かせてください。」と声をおかけすると、緊張が解け、涙がこぼれる方もいらっしゃいます。

私たちは、患者さんやご家族との面接を一番大切にしています。お話を聴くときは、わかったつもりにならず、「私たちは何も知らないので、教えてください」という気持ちで、ご家族のこと、職場での立場など、一人ひとりの状況を、丁寧に聴かせてもらいます。たとえば、「年金が月4万円しかないので、高額な治療は受けられない」という相談には、MSWは社会保障制度を把握しているので、「この制度が適用できますよ」と提案することもできます。

── 退院前には具体的にどのようなことをされますか。

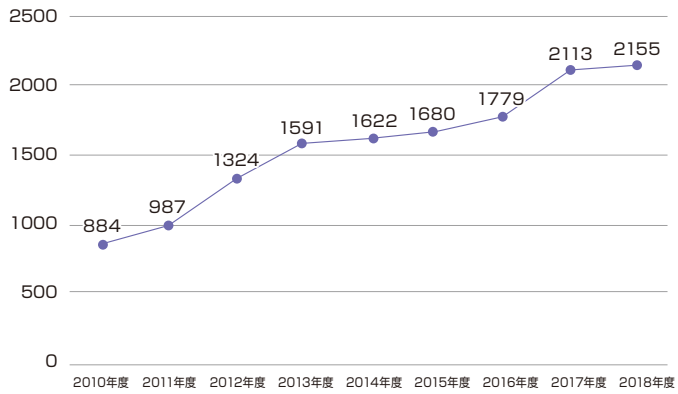
退院後、“患者さん”は“社会で生活する人”に戻られますから、その暮らしを調えるため、退院支援をします。地域の医療機関などにつないでいくため、本人・ご家族と院内の職員が、院外の多職種の方々（訪問診療、訪問看護、訪問介護、ケアマネジャーなど）とともに、概ね10名程度で退院前カンファレンスを行います。ここでは、在宅でどのように生活し、治療を続けてもらうかを相談し、情報を共有して連携していきます。皆さん忙しい中、積極的に参加していただいています。当院の昨年度の退院時共同指導件数は、全国一位でした。

── 病院と地域をつなぐ窓口としての役割もあるのですね。

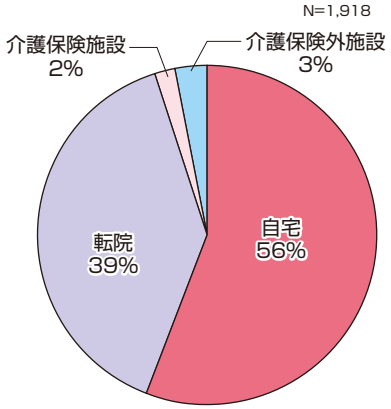
「地域包括ケアシステム」の取り組みとして、行政機関との会議にも出席しています。国、県、市などの施策に反映させるため、私たちは高度急性期の医療現場で起こっている、医療的ケアを必要とする子どもへの支援、がん患者さんや障がい患者さんへの支援などを行政に伝える大きな役割もあります。

地域全体が協力し合って、退院後も安心して生活できる社会にしていくため、微力ですが、お役に立ちたいと思っています。

島大病院新規退院支援依頼件数年次推移
2010年度～2018年度



島大病院 2018年度
退院支援対象者の退院先内訳



患者さんの気持ちを大切にした入退院支援

地域医療連携センター 看護師長 安田（やすだ） 真紀（まき）

── 地域医療連携センターではどのようなお仕事をされていますか。

看護師として医療相談をお受けします。症状をお聞きし、診療科の案内をしたり、介護保険の概要説明もします。医療福祉についての相談は、MSWが担当しています。

── 入退院支援について教えてください。

当院には、2病棟に1名の割合で、11名の入退院支援職員が配置されています。全員がベテラン看護師で、入退院支援業務のほか、病棟看護師の退院支援に関する相談にものっています。入退院支援職員がいることで、患者さんは安心感が得られ、看護師も「患者さんは、治療後は地域に戻られる」という意識を持って、看護にあたることができると思います。

──「退院前カンファレンス」と「退院調整」はどのように行われますか。

例えば、退院後もリハビリが必要な患者さんのカンファレンスには、外部のリハビリ施設の方にも来ていただいたり、小児患者さんの場合は、学校の校長先生や担任の先生に来ていただくなど、退院後の生活に関わる職種の方すべてに集まっていただきます。患者さんの状態を把握し、必要な支援を話し合うことを目的としています。

── 一人ひとりに寄り添う退院支援を目指していらっしゃるのですね。

退院時に医療的な部分を地域につなげるのが私たちの仕事です。看護を訪問看護師やヘルパーさんにバトンタッチするときに「患者さんは、今こういう状態で、ここまでできます。一人でできない部分は、家族と一緒にできるように指導してあげて下さい」と伝え、在宅で点滴が必要な場合は、ご家族にできる手技を教えて差し上げたりもします。

「寄り添う」というのは、ただ一緒にいることを意味することもありますが、私たちは、お話を聴いて、手を差し延べることもできます。退院後、どのように療養したいかは一人ひとり違います。患者さんの気持ちを大切にしながら、相談をお受けします。

退院後訪問で症状に合わせた在宅ケアを

皮膚・排泄ケア認定看護師 清水（しみず） 美穂子（みほこ）

退院後、自宅で療養・介護できるだろうか?と心配される患者さんやご家族がいらっしゃると思います。看護部では、昨年から**「退院後訪問」**を始めました。退院前カンファレンスにおいて、退院後もケアが必要と判断させていただいた場合、ご希望に応じて、患者さん宅を訪問し、療養看護の現場を実際に見せていただき、患者さんに最も良い介護ケアを提案しています。

私は皮膚・排泄ケア認定看護師として、褥創（床ずれ）の対策や改善、ストーマ装着時の相談や援助など、患者さんの生活の質（QOL）を向上させるための支援をしていますが、多職種のチームでの退院後訪問は、大変有意義です。例えば、床ずれになられた患者さんのお宅を、皮膚科医、作業療法士と一緒に訪問したところ、療養環境を異なる視点で見ることで、その原因がわかり、床ずれが目に見えてよくなられました。

高度な知識と技術を持った医療職員が、地域の訪問看護師、ケアマネジャーさんと協力して退院後訪問をいたします。在宅での介護についてご心配がありましたら、どうぞご相談ください。

プロジェクトM project 難治性緑内障治療に希望の光を!

― 谷戸　正樹のVision ―

『緑内障』は、老化にともなって視神経が萎縮し、失明に至る目の病気である。発症率は、40歳以上で約5%、80歳で10%台、その後はおそるべき勢いで増加する。原因は様々だが、治療法は眼圧を下げることしかない。

3話連載　第3話

緑内障治療の革命

足りないものはなにか?

留学を終え、島根大学医学部眼科学講座の講師となった谷戸正樹は、2008年から当時はまだ国内にほとんど導入されていなかった「チューブシャント手術※」の治療実績を増やしていた。そしてついに2011年、「チューブシャント手術」は保険収載され、多くの患者にこの手術を提供できるようになった。

それでも、谷戸は満足しなかった。この画期的な手術をもってしても、眼圧が下がらない患者がいたからだった。「まだできることはあるはずだ。“新しい方法”を探そう。見つからなければ、この手で開発しよう。」

2011年、彼は渡米し、「内視鏡的毛様体光凝固術（ECP）」のオペを見学した。ECPとは、目の中に内視鏡を入れ、レーザーで毛様体を凝固させ、房水が産生するのを抑制して眼圧を下降させる手術だ。

「この方法ならチューブシャント手術で効果が出ない患者も救済できる」

そう確信した彼は、2013年、国産の「ECP装置」の開発に着手した。

トラベクロトミーへの回帰

次に谷戸が思いついたのは、トラベクロトミー手術の新しい器具と術式を作ることだった。緑内障の手術は難しいが、緑内障の初期の段階に、経験が浅い医師でも確実に手術ができる器具と術式があれば、多くの患者の病気の進行を防げる。このとき生かされたのが、千原眼科医院で研究し、熟知したトラベクロトミー手術の経験だった。

2015年3月、彼は新しい手術器具「谷戸氏ab interno トラベクロトミーマイクロフック」の開発に着手し、2016年11月には早くも国内販売となった。

器具・術式ともオリジナルだったが、この手術が世界に普及することを願った彼は、あえて特許を取らなかった。当時、谷戸は松江赤十字病院に勤務していたが、この術式を記録した動画は、YouTubeで現在も世界に広く公開されている。

ECP装置の機器承認に向けて

2018年、谷戸正樹は島根大学医学部眼科学講座の教授となった。

開発中のECPは改良を重ね、早期の機器承認を目指している。

そして今日も、谷戸の緑内障治療を受けるために、全国から患者が島根大学病院を訪れている。（完）

※「チューブシャント手術」…眼圧が上がる原因となる、目の中に溜まる水「房水」を排出するインプラントを、眼球に取り付ける手術

谷戸氏ab interno トラベクロトミーマイクロフック

ECP装置

谷戸正樹から若い医師のみなさんへ

――人生には人を成長させる「良き出会い」が必ずあります。まずは、自分の置かれた立場で精一杯頑張り、目の前のことに全力集中で取り組みましょう。そして常に振り返り、足りないものがあれば、それを補うためのアイデアとその実現方法を考える。さあ、自らの手で新しい世界を創り出しましょう!

★谷戸氏ab interno トラベクロトミーマイクロフックの手術の動画はこのQRコードからスマートフォン等で見られます。

在宅医療を支えます

生活が楽になる福祉器具をご提案します

ジョイ・ケアたいよう 管理者　高木（たかき）　康行（やすゆき）

現在、出雲市内に本店を置き松江店との2店舗で営業活動を行っています。

弊社の業務内容は、福祉用具のレンタル・販売・住宅改修が主な仕事になり、福祉用具が必要な方へ身体状況に合ったものを提案し、ご利用頂いております。ケアマネージャー様からご紹介頂き在宅へ向かう場合と、入院中の方が退院後、在宅生活がスムーズに出来る様お手伝いをさせて頂く場合があります。後者の場合は特にカンファレンスで病院側からの身体状況を的確にお聞きし、必要な福祉用具を提案し、即日搬入ができるようスタッフ一丸となり行動しております。

入院患者様の多くは一日も早く自宅へ帰りたいと思っていらっしゃる方がほとんどで、そのご希望に一日でも早く対応できるように努力しております。退院後にご利用者様より、この用具があって助かっているとか、本当に楽が出来ているなどの感謝の言葉を頂けるのがとてもうれしく、やりがいをもって日々営業しています。

私のここだけの話

「Collection of my knitting works」

総務課
石川（いしかわ）　佳津枝（かづえ）

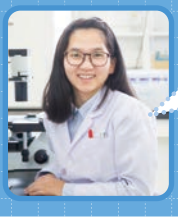
私の編み物歴は長く、小学校3年生まで遡るので、ほぼ半世紀です。初めて編んだのはマフラーでした。そのあとミトンの手袋（時代を感じます）、帽子、クッション、おくるみ etc …と続きますが、どれも、少しだけ高度なテクニックを要する“はぎ”のいらないものばかりです。

一昨年の1月に1歳の誕生日を迎えた孫のために、初めて“はぎ”のあるポンチョを編みました。それがコレです。アップにすると微妙な柄のズレが気になります。

昨年は、左のような作品を編みました。自己満足の域を脱せませんが、ご覧ください。

留学生の国自慢

産科・婦人科学講座
ゾルザヤ トゥムルガン さん



今回はモンゴルの ゾルザヤさんに母国について紹介していただきました。

こんにちは。モンゴルから来たゾルザヤ・トゥムルガンです。

モンゴルは中国とロシアに挟まれた中央・北アジアの内陸地帯にある国です。広さは約160万㎢で、19世紀にはアジアで6番目に大きい国となりました。（現在アジアで4位）しかし、人口は300万人で、世界で最も人口密度が少ない国です。

モンゴルでは、広大な土地と、コバルトブルーの空、森、砂漠、クリスタルのように透明な川と湖、そして伝統的な遊牧民のおもてなしが体験できます。

モンゴル料理は、ステップ（草原地帯）で放牧して育てた家畜の肉やミルクをもとに作られます。これらのシンプルな素材を，野菜や小麦粉と合わせ，様々な方法で調理します。

ここで、2つの有名なモンゴル料理を紹介します。「ボーズ（Buuz）」と「ホーショール（Khuushuur）」です。ボーズは、小麦粉の皮に肉を詰めて蒸した料理です。ホーショールは、ミートパイを揚げたものです。

おそらく、一番有名なモンゴルのお祭りはナーダム（Naadam）でしょう。この祭りは20世紀に始まり、男性が行う3つのスポーツ（モンゴル相撲、競馬、弓射）で構成され、お祭り、踊り、歌、社交も一緒に行われます。

この祭りの主会場は、首都ウランバートルですが、モンゴル全土で祝われます。

モンゴルは、冒険に満ちた目的地です。旅行者は遊牧民の生活を体験し、広漠とした、手付かずの自然の風景を目にすることができます。私の国にぜひ来てくださいね。

オルホンの滝：ウラーンツタガラン（赤滝）

チンギス・ハン像（高さ40m、ステンレス製、2008年建立）

モンゴル料理（ホーショール、ボーズ、ラムの焼肉）

イベントなどのお知らせ

島大病院　ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。

当院に来院される患者さんや一般市民の方の健康づくりにすこしでもお役立ていただきたいとの思いから、健康や医療に関するミニ講座を定期的に開催しています。予約不要で途中参加・退出も自由です。どうぞお気軽にご参加ください。

実施内容は下記のとおりです。

対　象　患者さんほか一般市民　**場　所**　外来1階 外来待合ホール

時　間　11:00～11:30

回数	月日	担当	講師	テーマ
第284回	10月17日(木)	心臓血管外科	和田　浩巳	小さなキズでできる大動脈瘤手術
第285回	10月24日(木)	膠原病内科	近藤　正宏	未定
第286回	10月31日(木)	光学医療診療部	板脇　綾子	受けてみよう内視鏡検査
第287回	11月 7日(木)	脳神経内科	稲垣　諭史	てんかんを知る
第288回	11月14日(木)	高度外傷センター	岡　和幸	高度外傷センタードクターカーについて：消えゆく命を救う病院前診療
第289回	11月21日(木)	整形外科	山上　信生	がん骨転移に対する整形外科的治療
第290回	11月28日(木)	脳神経外科	辻　将大	脳卒中について
第291回	12月 4日(水)	内分泌代謝内科	金沢　一平	骨折で歩けなくなるその前に、知っておきたい骨粗鬆症のこと
第292回	12月12日(木)	入退院管理センター	竹下　純子	入退院センターってどんなところ?
第293回	12月19日(木)	精神科神経科	三浦　章子	身体疾患に伴う精神症状
第294回	12月26日(木)	循環器内科	山口　一人	心エコーでみる心不全

病院ボランティアコンサート開催予定

開催場所：附属病院1階外来待合ホール

開催時間：19時から

10月18日(金)
「こころ音」雅楽会

11月 8日(金)
島根大学 エレクトーン&ピアノサークル COLORS

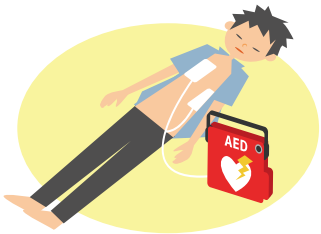
11月22日(金) 創作朗読楽団　Repos（ルポス）

12月 6日(金) 出雲ロータリークラブ（出雲楽友協会）

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定（出雲ケーブルビジョン）

令和元年10月放送

MEセンター　臨床工学技士長　明穂　一広
放送内容：
「ちょっと気になるAED」



ニュース NEWS & トピックス TOPICS

入院中も楽しく！小児センターに『マニュライフわくわくルーム』ができました

「療養中の子どもたちや、思春期～若年(AYA)世代の治療に対するモチベーションを上げたい。」という小児センターの保育士、CLSら職員の発案が実を結び、NPO法人子ども健康フォーラムとマニュライフ生命の支援を受け、国内最大規模のプレイルームが完成しました。

新しく設置された広い多目的ルームでは、様々なイベント、運動、映画鑑賞ができます。また、プレイルームと食堂を別々にし、気兼ねなく遊んだり、食事ができるようになりました。注目のAYAルームのインテリアは、入院していた中高生の患者さんの声を取り入れ、落ち着いた木目調で設えられました。備品には、島根県小児がん対策募金（バナナ募金）の支援金を活用させていただいています。様々な方の篤志により、小児患者さんの療養環境が向上していることに、心より感謝申し上げます。

日御碕灯台も ブルーにライトアップします

11月3日(日)～14日(木) 18:00～20:00

主催：島根大学医学部附属病院糖尿病友の会いなほ
島根県立中央病院糖尿病友の会
中島医院（出雲市大社町）、島根大学医学部附属病院
出雲大社ブルーライトアップ実行委員会※
※「出雲大社ブルーライトアップ実行委員会」は島根大学医学部附属病院の医療スタッフ有志を中心として成り立っています。

後援：嘉村医院あおぞら会、出雲市民病院まめな会、斐川生協病院かんなび会、斐川やまもも健康の会、出雲市立総合医療センターやくも会、特別養護老人ホームいなさ園、特別養護老人ホームみせんの里、グループホームきづきの家、出雲ライオンズクラブ、出雲中央ライオンズクラブ、出雲南ライオンズクラブ、大社ライオンズクラブ、出雲商工会議所、出雲商工会、（一社）出雲観光協会、出雲市、島根県出雲保健所、出雲医師会、恵雲会、島根大学医学部医師会、島根県糖尿病協会、NPO 法人島根糖尿病療養支援機構、Do ライト株式会社

問い合わせ先
出雲大社ブルーライトアップ実行委員会 事務局
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1 島根大学医学部内科学講座内科学第一
TEL 0853-20-2183

島大病院 書籍のご紹介

第5弾 好評発売中！

「がん治療と仕事の両立について」
「災害時の医療」など 50項目

島大病院・1年分の健康講座を
この1冊にまとめました。

島大病院 ちょっと気になる
健康講座5
Shimane University Hospital Lectures on Health

島根大学病院の
スタッフがわかり
やすく解説します。

第1弾～第4弾も
ご一緒にどうぞ！

監修：島根大学医学部附属病院　発売：今井出版
A5判／並製本／168頁／オールカラー　定価：本体 1,000円+税

編集後記

少子高齢化に加え、核家族化、中山間地域の人口減少等により、従来からある自治会や町内会などのコミュニティ機能が失われつつあります。時代の変化とはいっても、人は一人では生きていくことはできません。

今回は、「地域包括ケア」と地域医療連携センターの取り組みについて紹介しました。新しい時代の助け合いは病院を中心にして広がっている、と感じました。

【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌
しろうさぎ
についてのお問い合わせ先
（このＱＲコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます↑）

医学部総務課　企画調査係　広報担当
☎0853-20-2019
✉mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp
https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/